

# EDELWEISS

JUNI 2022

## 聖霊降臨祭

6月5、6日は聖霊降臨祭ですね。  
毎年この祭りの意味を頭の中で膨らませるの  
ですが、どうも実感が湧きません。  
皆様は如何ですか？

イエス様が復活して50日目に精霊が降り  
て来た記念日だそうで、精霊が降りるとそこ  
にいた人たちは精霊に満たされ、いろいろな  
国の言葉で話し始めたということです。愛を  
もってすべての国語を理解し、受け入れ(第  
二バチカン公会議の「教会の宣教活動に関す  
る教令4」より)、そうして教会活動が始  
まったといえます。

残念ながら現在も戦闘が続いているウクラ  
イナやロシアではユリウス暦を採用している  
ので6月12日が「聖神降臨祭」となります。  
精霊が降りてきて戦争を止めてくれないもの  
でしょうか・・・。長期戦になると色々な背  
景が見えてきて、精霊でも降りてこない限  
り、出口が見えないような気がしてきます。

さて、キリスト教徒でない者は、どうやっ  
て精霊に満たされる感覚を疑似体験しま  
しょうか。先日道端に咲いていた花の芳香を  
楽しんでいたら、すれ違う女性が微笑んで  
くれました。こんな時、精霊が降りてきたよ  
うな幸福感を感じます。花の美しさ、芳しさ  
は、万人を満たしてくれますね。

日本で6月の花と言えば紫陽花でしょ  
うか。じめじめした梅雨の中で、雨に打たれ  
ても負けないような頑強な佇まい。対して  
スイスでは薔薇の季節だなあと感じます。  
コロナ・ロックダウン後、初めて出かけた  
Rapperswilの薔薇園で薔薇に囲まれた時は  
気分が高揚しました。薔薇の精から元気を貰  
いたい方は是非！



## Pfingsten

6月の第3日曜日は「父の日」ですね！そう、日本  
では・・・  
でも国によっては6月の第2日曜日だったり、聖  
ジュゼッペの名前を冠する3月19日だったりする  
ので、「母の日」に比べ、どうも影が薄いのです。  
(これはピノキオのおじいさんの名前から来ている  
と言う人もいますが、実はイエスの父ヨゼフの  
イタリア名ジュゼッペが由来で、中世から祝われ  
ていたようです)



- ◆ 巻頭文 『失われた日本的倫理の原点を取り戻そう』 青砥 玄
- ◆ 私のイチオシ、シェアします！ Vol.25  
『チューリッヒからロンドンへ車の旅』 長田 忠雄さん
- ◆ ホイツァメ♪ 言葉に寄り添う居場所探し Vol.8  
『ズーム井戸端 Über was schwätze mer Hut?』 長坂 道子
- ◆ チューリッヒの建築散歩 Vol.26 ユカ ロイバー
- ◆ KETTE Vol.159 神代 和男さん (Bern在住)

巻頭文 「失われた日本的倫理の原点を取り戻そう」 青砥 玄 (会長)

日本社会は、1990年代初めのバブル崩壊以来「失われた30年」とも呼ばれる低迷が続いています。国際通貨基金(IMF)の統計で、国の経済規模を示す名目国内総生産(GDP)をみると、日本は米国、中国に次ぎ世界3位と大きいのですが、しかしながら、1990年の値と比べると、この30年間で米国のGDPは3.5倍、中国は37倍にもなったのに、日本は1.5倍にとどまっています。世界4位のドイツさえも2.3倍の成長で、日本だけ遅れが際立っています。国民1人当たりのGDPも、日本はコロナ禍前の19年で主要7カ国(G7)中6番目という低水準です。賃金も上がっていません。経済協力開発機構(OECD)によると、2020年の日本の平均賃金は、加盟35カ国中22位で3万8514ドル(1ドル=110円で424万円)。この30年で日本の平均給与は4.4%増とほぼ横ばいですが、米国は47.7%増、英国44.2%増、ドイツ33.7%増、フランス31%増などと差は極めて大きくなっています。賃金の額も、隣国、韓国に15年に抜かれてしまっています。

そして日本は今、「貧困」が大きな社会問題となっています。相対的貧困率とは、生活状況が自分の所属する社会の大多数よりも、相対的に貧しい状態にある人の割合を指します。先進国ではこのかたちの貧困が多く、日本にも相対的貧困は存在しており、厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、2018年の日本における貧困線は127万円、相対的貧困率は15.4%とされています。つまり日本人の6人に1人は、相対的貧困ということになります。

また子供の貧困が大きな社会問題となって久しいですが、近年注目を浴び始め、個人や企業、NPO法人が支援しているのが、全国に3,700箇所を超える「子ども食堂」です(2019年6月時点)。この数字は今後も増え続けると予想されています。利用料金は安価もしくは無償で、貧困家庭でも問題なく利用できることから多くの子ども達が利用しています。

またコロナ前から既に、自宅を持たずネットカフェなどで生活するネットカフェ難民(ホームレスの一種)の数が急増しており、2018年の調査で東京都だけで4000人を数えていました。その後コロナ禍でさらにその数は大きくなっていると思われます。

日本における貧困問題の原因の1つとして、非正規雇用の増加があります。厚生労働省によると、日本の労働者に占める非正規雇用の割合は年々増えており、2019年には38.3%にも及んでおり、格差社会の原因となっています。

引きこもり問題も深刻です。内閣府の実施した「生活状況に関する調査(平成30年度)」からは、40歳から64歳までの引きこもりが全国に約61万人いるとの推測ができるという

ます。15~39歳の54万人を大きく上回る数字です。若年層の引きこもり問題が解決されないまま長期化、高齢化するに連れて表面化した社会問題が8050問題であり、80代の親が50代の子供の暮らしを経済的に支える状態から「8050問題」と呼ばれるようになりました。

日本の自殺者数も2020年度は21,081人(警視庁)となっています。相談窓口を持つNGO団体も多く「全国いのちの電話」(全国51か所)では、2021年に総計52万8千件の問い合わせに対応し、NPO法人「あなたのいばしょ」では2021年度、20万件以上の相談を受け、個人的な支援を24時間体制で展開しています。

こうして問題点を探してゆくと、様々な問題が山積みする現下の日本の現状には、胸が締めつけられるように感じます。

なぜこんなことになってしまったのか?どこかで日本はボタンを掛け違ってしまったのではないかと、私もあれこれ考え続けてまいりました。政府の国家運営・経済政策の問題というのは言うまでもありませんが、なぜそうなったのかを考えるにつけ、私たちは根本的に何かとても大切なものを見失ってしまったからではないかと思わざるを得ないのです。

戦前の日本人には常識として普通に教育されていたのに、戦後教育で突然消えていった内容の中に、「民の竈(かまど)」の物語があります。日本書紀に記載された4~5世紀頃の出来事で、仁徳天皇時代の治世のエピソードです。為政者・権力者の心構えとして今日に至るまで語り継がれている内容なのですが、その中にこそ、現在の日本が直面する根深い問題の解決法があるのではないかと思うに至りました。以下にその内容をご紹介しますながら皆様と考えてゆきたいと思います。

民の竈(かまど)を心配した聖帝仁徳

仁徳天皇は、応神天皇の第4子として誕生した。幼い頃から聡明かつ容姿端麗で、壮年になると心広く恵み深い人であったといわれている。諱(いみな:個人の正式名称)は、『日本書紀』では大鷦鷯尊(おおさざきのみこと)、『古事記』では大雀尊(読み方同じ)とされている。

仁徳天皇は即位後、高殿から国を見渡し、民家のかまどに煙が立っていないのを見て、「これは民が貧しいからである。今、宮に3年分の備蓄があるから、今後3年は徴税を禁じる」と命じた。そのため自身も衣服や履物は破れるまで使用し、屋根の茅が崩れても葺かなかった。3年後、再び高殿から見渡すと、人家の煙は盛んに上っていた。そこで「我は富んだ。素晴らしきこと」と喜ぶと、皇后が「私たちはこんなに惨めな生活をしているのに、どうしてですか?」と聞き返し

た。すると仁徳天皇は、「まつりごとの基本は民。民が富まねば天子である私も富んだことにはならぬ」と答えた。民に力が戻るとようやく税を解禁し、課役を命じたが、民は大挙して都に集まり、自主的に御殿の造営や納税に励んだ。この「民のかまど」の話は、仁徳天皇の仁政として知られ、「仁徳」の漢風諡(し)号もこれに由来する。

その後、仁徳天皇は民の課役で河内平野の開発や広大な田地の開拓などのインフラ整備を推進し、国土経営でも善政を行った。

(公益財団法人:関西・大阪21世紀協会「なにわ大阪をつくった100人」第21話仁徳天皇より)

国家の3要素は領土・国民・主権です。それを徹底的に守ることが国家の使命です。

この民のかまどの物語は、今から1600年も前のお話ですが、その精神「民は国の宝であり、民が豊かになれば、為政者は嬉しい。苦楽を共にする」という考え方が日本の草創期から存在していたということはすごいことです。それはまさに自他の区別のない一つの家族のような連帯社会を意味します。

「世の為、人の為に生きる」こと、それこそ日本人が歴史的に受け継いできた倫理の形であり、権力者のあるべき心の姿勢を示していると思うのです。

この様な考え方・思想こそ、貴重な日本の伝統として失ってはいけない。それこそまさに民主主義の原点でもあります。自分のことより人のこと、人のために生きる。そういった精神を現代の政治家や、官僚の方々が取り戻し実践してもらいたいと強く願う次第です。

西郷南洲は、彼の遺訓の中で、「租税を薄くして民を裕にするは、即ち国力を養成する也」と示しています。また松下幸之助氏は、無税国家の勧めを50年前に日本で叫んでおられました。

国家のために民があるのではなく、民のために国家があるわけです。

奉仕すべき立場の組織(例えば国、自治体や官僚機構)あるいは権力を持っている人間が、自分の利己を守るために、自己保身に走る人が多い今日この頃です。我々一人一人は、自分を中心に考える人たちの話術に惑わされることなく、社会のリーダーを厳選してゆかなければならないと考えています。皆さんが選ぶ責任を全うすることにより、国家、地方、そして自分を守り、共に協力して努力が報われる社会を実現してゆきたいと思います。

◆ご意見・ご質問は青砥まで。Gen.Aoto@toyota.ch



ロンドンに家族を残したままスイスに単身赴任するも、5年ほど前にチューリッヒで定年退職となり、今は有り余る時間を持って余し気味。誰しも定年退職を迎えると、さあこれから悠々自適の生活、時間はたっぷりあるし、あれもしたい、これもするぞ、といきなり肩に力が入るようですが、結局は単調な暮らしの連続に前のめり気味だった姿勢を実感するようです。

こんな有り余る時間を背景に、チューリッヒからロンドンまで7日間かけて足の向くまま気の向くまま、イースター明けのヨーロッパをのんびりドライブしてきました。遊びに来ていた女房を話し相手方々、道中の相棒に選んで先ずは往路の旅へ出発です。

先ずどの港からイギリスに渡るかを決めますが、最短のフランスのCalais-Dover間はウクライナ難民への緊急ビザ支給で大混雑中とのニュースに加え、フェリー最大手のP&Oが人員整理で運行便縮小中のため、ロッテルダム近くの港(Hook of Holland)からロンドン北東部のHarwichに上陸することにしました。

運転経路としてはチューリッヒからパーゼル経由でフランスに入り、ColmarやStrasbourgの見事な旧市街・大聖堂見学が一般的だと思いますが、直近でも訪れている街でもあり今回は少し外れたMetz(メスと発音するらしい)を訪れました。中世のヨーロッパにタイムスリップしたのでは、と錯覚するほど重厚なゴシック建築に囲まれ、時を忘れず。圧巻はSt-Etienne大聖堂で6,500平米ものステンドグラスには圧倒されます(写真左下)。スイスからの至近距離にこんなフランス文化の香る綺麗な街があるなんて思ってもない発見でした。

Metzを北上、ルクセンブルグを突き抜けてベルギーのAntwerpに入ると、潮の香りが始まります。新鮮な魚介類に白ワインを思い浮かべて、



旅の目的である、美味しいもの探しの欲求に駆られてくるのです。ホテルでオススメのレストランを聞いてきましたが、あるはあるは其処此処に新鮮な魚介類が溢れています。生牡蠣も種類が多く、又ムール貝が大量に入った鍋のスープも、チューリッヒではなかなか味わえない絶品でした。旧市街のGrote Markt(タイトル写真)などを散策していると、世界中の船乗りやらダイヤモンド商人がいきなり現れてきて声をかけられそうな錯覚に陥るほど、中世の商業中心地であったことを思い浮かべます。



チューリッヒからロンドンへの車の旅  
長田 忠雄 さん

そしていよいよオランダのAmsterdamに入ります。イースター休暇の直後とはいえ、ここは世界中からの観光客で溢れかえっており、ホテルも運河通りも美術館も、どこもかしこも人、人、人。ゴッホ美術館やアンネフランクの隠れ家などの入場券は5月まで売り切れとの話。何とか国立美術館のチケットを手に入れて入場するも、大変な賑わいでした。オランダ観光目玉のキューケン



ホフではチューリッヒのシーズン真最中ということもあり、また昨年来のコロナ禍の反動もあって多くの観光客で溢れる中、見事なチューリッヒの広大な庭園(写真右上)を終日楽しみました。

唯一の日系ホテルであるホテルオークラAmsterdamは現役時代に時々出張で宿泊した懐かしいホテルですが、この落ち着いたホテルの雰囲気は昔も今も変わらずで、内外のホテル客の人気の高いようです。今回の目的の一つはホテル館内にあるレストラン「山里」の和食でしたが、ミシェラン星がつけられており、現地の人たちにも超人気のようでした。懐き料理の一品一品の素材や味付けも一流の板前であることを印象づけ、寿司ネタ(真鯛、大・中トロ、ホタテ、口の中でプチッと弾けるイクラ等々)もスイスでは味わえない超新鮮な素材に大満足でした。



最後はヨーロッパ出国地であるロッテルダム。ここでは奇抜な設計の建築ビル(ex. キュービックハウス、巨大ドーム式マーケット等)に圧倒されます。こういうビルに囲まれていると、日本人の発想の転換を迫られているようで、日本の歴史に大きな影響を与えたオランダの底力を感じざるを得ません。



なんとか無事にイギリスにたどり着きましたが、自動車旅行をされる皆さんへの注意事項として老婆心ながら申し上げれば、ホテルは必ずホテル専用の駐車場のところがお勧めです。大昔ですが、イギリスのプレートナンバーでフランスに旅行した時、一晩路上駐車をしたら運転席のドアをこじ開けられラジオ・ステレオからダッシュボードの金目のものは全部盗まれるという、酷い車上荒らしを経験しました。また最近でもロンドンでは、希少金属で作られているハイブリッド車のコンバーターを、シャシーの底から簡単に盗まれる事件が相次いでいます。僕も数年前に被害に遭いましたが、それを盗まれると巨大な音がして走行不能になるばかりでなく、部品調達ができないため修理に時間がかかり、おまけに翌年の保険料が倍に跳ね上がる等の結果になります。ご用心。

# チューリッヒ発パリ経由羽田行き運航中! 夏のご帰国はJALで

安心・おトク!

◎2022年8月31日までにご購入の  
ヨーロッパ発の航空券は無料で予約変更可\*

\*変更により差額調整が発生する場合がございます。

◎羽田ラウンジご利用や宅配無料キャンペーンも! 詳しくはこちらから!



大好評! 最新の出入国や運航に関する  
情報満載のオンラインセミナー開催!

開催日時 / 2022年6月13日(月) 18時30分~19時

◎ZOOMによる開催

◎参加費無料・当日まで参加申込可・当日ご都合が悪い場合は  
右記申込サイトからのご登録で後日見逃し配信閲覧可

奮ってご参加  
ください。



詳細・ご予約は [www.jal.co.jp/ch/](http://www.jal.co.jp/ch/)

JALヨーロッパ予約センター 0844-888-777(スイス国内・日本語専用ライン)



JAPAN AIRLINES



間にたくさんのお休みを挟み、それでもなんとか続いているスイスドイツ語のクラス。参加者は私の他にハンガリー人の女性二人。たった三人のこじんまりとしたレッスンは、最初の頃こそ、毎週、律儀に教材のテキストやプリントを用いて代表的な単語や言い回しなどを習っていたが、この頃は一時間レッスンの三分の二くらいはおしゃべりに費やされている。すべてズームの画面越し。だが背景には二人の住まいの様子や、新しく飼い始めたハムスター、知らない間に生まれていた新生児など、おしゃべりを盛り立てる素材が満載だ。

そんなある日のレッスン、ハムスターの飼い主は休暇で欠席だったので、生徒は新生児の母親ヴァンダと私だけ。このヴァンダ、数ヶ月前に「都合が悪い」といって一回欠席した翌週、レッスン冒頭「Lueget mal (見て見て)！」と両手を持ち上げてお披露目してくれたのが、誕生したばかりのペーター君なのだった。しかもそれはヴァンダの五人目の子供。ズームレッスンで顔しか見えず、お腹が大きくなっていくことを全く知らなかったこちらは、この「ちょっと卵でも生んできた」みたいな状況に驚いたのなんの。

そのヴァンダが言う。  
「デュレンマットをハンガリー語訳で読んでみた」  
デュレンマット好きの私は思わず前のめりになる。  
「ところがね、翻訳がひどかった。いや、ひどいってというか、スイスのこと全然知らないんだな、この人、と思わせる訳で、例えばカントナルバンクのカントナルが、ただの人名みたいに訳されていたりして、なんか興ざめだった」



そんな話から、その日の話題は「翻訳」の方向に流れ始めた。

「翻訳は原文をどの程度、意識してもいいものか」という先生の問いかけに、  
「実は今、フランスの文芸書を翻訳しているのだけど、句点が極端に少なく、段落がすごく長い。これ、明らかに意図的にそうしている文体だからできれば生かしたいのだけれど、日本語にあまりに馴染まず、とても悩ましい」と私が答える。

「長文で思い出すのはトーマス・マン。一ページ以上に及ぶ長文が結構出てくるよね。ああいうのは、翻訳はおろか、いまだきのドイツ語話者、特に我らスイス人には馴染みなくてしんどいね」

「トーマス・マン、といえば」とそこへヴァンダが割って入る。

「義祖母、つまり夫の祖母だけど、彼女は

トーマス・マンを初めてハンガリー語に訳した翻訳家だったの。結構有名な独文学専門の翻訳家だったらしいよ」

涼しい顔して、そんなことを言う。

ヴァンダは研究所勤務の生物学者。そしてトーマス・マンの翻訳者の孫息子、つまりヴァンダの夫はグーグル勤務のITエンジニアだと前に聞いた。もう一人のクラスメイト、カティは女性のためのオンラインプラットフォームを運営しているらしい。

時折、先生が間違いを正してくれるとはいえ、外国人三人が不器用なスイスドイツ語で脈絡のないおしゃべりをすることに、語学上達の観点からどんなメリットがあるのか、実は私はかなり心もとない。先生、準備不要で楽してるよね、と思わなくもない。なのに辞めずにダラダラ続けているのは、ソ連時代に集団農家に拉致されて、何年も強制労働させられたおじいちゃんの話の聞いたり、オルバン大統領下での言論統制や汚職に対する思いに触れたり、そして共産主義時代のハンガリーにトーマス・マンを紹介した人とささやかな接点を持ったりすることが楽しいから。

一目で外国人とわかる私とスイスドイツ語で話してくれる人など、この国でほぼ皆無な中、二人は私の貴重なおしゃべり友達。間違いだらけのスイスドイツ語で、我らは文化を、政治を、ウクライナを、今日のご飯やハムスターの成長を語り倒しているのである。

\* **ホイツァム / Hoi zäme**  
(Hallo, zusammen) は、「みなさん、こんにちは」という意味のスイスドイツ語表現

**BULLETIN BOARD**

**Musique et Vin 音楽とワイン  
-la petite fleur sur l'arc-en-ciel**

6月12日(日) 16:00  
Aarbergerhus Ligerz  
Ekachai Maskulrat チェロ  
松村茜 ピアノ  
ラフマニノフ…プロコフィエフ…  
そして… 中世の街並みが残るリゲーツでワイン農家 Klötzli と共に。  
完全予約制。詳しくは:  
akanematsumura.com 国石

**ベートーベンフェスティバル**

昨年生誕250年を迎えたベートーベンの珠玉の作品を演奏します。  
6月19日(日) 17時 バイオリンソナタ「春」「クロイツェル」  
7月2日(土) 17時 ピアノトリオ「幽霊」「大公」

バイオリン 坪井悠佳  
チェロ ジュリアン・キルヒエンマン  
ピアノ 大橋雅子 入場無料 アペロ有り  
Reformierte Kirche Opfikon-Glattburgg  
大橋 dklmce0511@gmail.com

**ファミリーコンサート ヴィヴァルディ「四季」**

子供から大人まで楽しめる、お話付きの気軽なコンサート。美しい絵本を大画面で見ながら、バイオリンとオルガン・ピアノの調べをお楽しみください。  
6月12日(日) 15時 入場無料  
ベビーカーでも入れます。  
バイオリン 坪井悠佳 ピアノ・オルガン 大橋雅子  
Reformierte Kirche Breite (旧Bassersdorf)  
坪井 dklmce0511@gmail.com

**コンサート『サマータイム』**

「West Side Story」「Les Misérables」他  
6月19日(日) 17:00 Ref.Kirche Buchberg  
6月26日(日) 17:00 Zunfthaus zur Waag, Münsterhof 8, 8001 Zürich  
Golay 由美 (ソプラノ)、竹下 数雄 (テノール)、津田 理子 (ピアノ) 入場無料、Kollekte 竹下

**外務省からのお知らせ**

2022年4月27日(日本時間午前10時)以降、羽田空港、成田国際空港、中部国際空港、関西国際空港、福岡空港で運用が行われているファストトラック(入国時の検疫手続の一部の事前登録)について、これまでは「日本到着予定時刻の16時間前」までに事前審査の申請を行っていただく必要がありましたが、事前審査の締め切り時間が「日本到着予定時刻の6時間前」に短縮しました。この時間短縮措置により、さらに多くの渡航者がファストトラックをご利用いただけるようになるため、従来よりもスムーズな入国が可能となります。

詳細は以下のリンクでご確認ください。  
www.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo\_2022C040.html







**ゼクセロイテンキダーパレード**

4月24日(日)、3年ぶりに開催されたゼクセロイテンキダーパレード。全日校・補習校合わせて31名の子どもたちが参加しました。子どもたちは元気に明るく声をかけ合いながら馬車の上で太鼓を叩き、沿道の方々に飴や折り紙、日本の旗を手渡しました。子どもたちは「日本文化」や「おもてなし」「思いやりの心」を精一杯伝えていたように思います。沿道からの多くの声援に元気をいただき、全員が達成感にあふれた表情でパレードを終えることができました。小雨も吹き飛ばす子どもたちの明るい笑顔に、爽やかな春の訪れを感じました。

紙面をお借りしまして、改めてチューリッヒ日本商工会の皆様、チューリッヒ日本人会の皆様はじめ、関係者の皆様のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

チューリッヒ日本人学校 向井 茂都子



**グラスホッパー・クラブ・チューリッヒの2人の日本人選手**

今シーズンのサッカースイススーパーリーグ優勝はFCZに決定し、来年のチャンピオンズリーグで世界の強豪と戦う切符を手に入れました。そしてチューリッヒにあるもう1つのサッカークラブ、グラスホッパー・クラブ・チューリッヒでは、2人の日本人選手が仲良く活躍しています。

1人目は昨年の本誌11月号でインタビューした川辺 駿選手。そのインタビュー後メキメキと実績が上がり、2試合に1本のゴールを決める勢いで、ジャーナリストとファンが選ぶベストプレイヤーに2度も選ばれています。そんな目を見張る活躍を認められ、イングランド・プレミアリーグのウルバーハンプトンからオファーが来て移籍契約を結びましたが、現在は「貸し出し選手」として、スイスに戻り、更なる底力を蓄えています。

2人目はそんな川辺選手の大抜擢も引き金となり、今年1月に移籍してきた瀬古歩夢選手で、ディフェンダーとして頼もしい姿を見せています。2025年までの契約でスイスへ来た瀬古選手は、「まずはグラスホッパーを上位3位に持っていき、最終的には優勝を目指します!」と、さらっと言うだけの豪傑です。日本では対戦したことはあっても、話したこともなかったという両選手、スイスがご縁ですっかり仲良くなり、川辺選手の手で山や湖に行き気分転換したりもするそうです。

そんな2人についてジョルジョ・コンティーニ監督に聞いてみました。「ハヤオは在グラスホッパーの日本大使です(笑)。彼の活躍で日本の選手を獲得してくるという道が確立でき、彼がいるから、アユムがチームに慣れていく手助けにもなります。アユムはロックスターのようなタイプで、これからが楽しみです。グラスホッパーは、監督の私を含め、今年から新体制になったので、1年目は難しいのが当然と覚悟していました。ハヤオも引き続きこのチームに残ってくれる来シーズンは、慣れてきた皆が力を合わせられるので、良い成績が期待できます。」と希望を託し、「これからも日本の若手がこのクラブを通して欧州でプレイしようというモチベーションにもなるように」と、日瑞の架け橋にもなりそうな勢いです。

これはもう、チューリッヒに住む日本人として、来シーズンのグラスホッパー・クラブを応援しない手はありませんね!(SN)

(もう少し詳しく知りたい方は、手前味噌で恐縮ですが、以下のURLからお読みいただけます。)

https://norddot.app/899225678094123008?c=39546741839462401

https://norddot.app/899225678094123008?c=39546741839462401

https://norddot.app/899225678094123008?c=39546741839462401



ゴールを決めて雄叫びを上げる川辺選手(右)と嬉しそうな瀬古選手



**大使館からのお知らせ**

**領事出張サービス**

- 日時 2022年8月6日(土) 10:00-12:00、13:00-15:00 実施時間は変更の可能性あり。
- 場所 チューリッヒ日本人学校日本式2階音楽室
- 出張サービス申込受付 2022年7月21日(木) 必着

▷パスポート、証明書の受け取りを希望される方  
2022年7月21日(木)までに必要な書類を領事班までお送りください。

\* 郵送による仮受付申請をされ、領事出張サービス会場で旅券を受領される方は、旅券の発行及び交付日が領事出張サービスご利用日と同一の日付となるため、当日来場されない場合には、当該旅券申請は取下げ(辞退)となり、当該旅券は後日交付することはできません(本件についての同意書を事前の申請仮受付の際に提出いただけます)。については、申し込みされた場合は必ず当日にお越しいただく必要がありますので、ご留意ください。

▷パスポート、証明書の申請、各種届出を希望される方  
2022年7月21日(木)までに当館領事班へ電話又はメールでご予約ください。



**『ELECTRIC CHILD』サイエンス・フィクション**

シモン・ジャクメ Simon Jaquemets 監督  
8Horses (CH)、Una Film (DE)、Revolver (NL) 製作  
Elliott Crosset Hove、福島リラ主演  
スイス連邦文化庁、チューリッヒ映画財団等後援  
スイス国営テレビSRF共同制作

第1作 Chrieg (戦争/2014年)、第2作 Der Unschuldige (無実な人/2018年)に続く、待望の長編第3作はこんなストーリーです。

\*\*\*\*\*

「ソニー (Sonny) は、あるプロジェクトに取り組むコンピュータ科学者。そのプロジェクトとは、巨大なスーパーコンピューターの中の仮想島に、閉じ込められた複雑なAI生命体を創造すること。

ソニーと亜希子の息子ノ口の命が、珍しい病気によって脅かされたとき、彼はAI生命体に助けを求め、世界の終わりを意味する連鎖反応を引き起こす・・・」

\*\*\*\*\*

6月14日から撮影開始ということですが、以下の日本人出演者は公募されます。

- ★ ベビノロ 6月中旬に ①生後2~4週間になる新生児1名  
②3~6ヶ月になるハーフの日本人1名
- ★ 明子 (主役の1人)の父母役、ノ口の祖父母役 60~79歳の男女1名ずつ

《お問合せ》 キャスティング会社 The casting Plan x Rplan Casting  
thecastingplan@gmail.com



日本ではゴールデンウィークである5月初めの週末の日曜日、チューリッヒのベルビューから近いBürkliplatzでは、サルサの大音響が鳴り響き、広場の中心にある屋根付きのパビリオンを舞台にたくさんのカップルがダンスに興じている。初夏の爽やかな風に吹かれて、英語を話す家族連れと一緒に広場横にあるバス停で165番のRüschlikon行きのバスを待つ。

今日の目的地は、その名もHome of ChocolateというLindt & Sprüngli社のチョコレートミュージアム。このバスを利用すれば、目的地まではたったの13分と短く、チューリッヒ湖畔の建築観光スポットも車窓に見えるというおまけ付きなので、たっぷり建築バスツアーを堪能してみる。

まずはGeneral-Guisan-Quai通りに入ってゆっくりと走り出したバスの右手には、改装後のKongresshaus、そしてそれに隣接する赤煉瓦のお城風のRotes Schloss。Rentenanstaltの停留所のところで、バスは左折してMythenquai通りに入る。窓の外にはモスグリーンのお城風がバスと平行に走っているのが、旅行気分を盛り上げてくれる。このすぐ後に真新しい、菱形をモチーフにしたガラス張りの超モダンなファサードを持つZürich Insurance Group社のビルが見える。この建物はオーストリア人のアドルフ・クリシュニッツ\*の作品。そして最後のハイライトは、波打つ大きなガラスが何枚も連なる大きなガラス箱のような Swiss Re本社の建物。この建物は見るたびに、ガラスの曲面のディテールに思わずため息が出るほど美しい、パーゼルの有名なDiener&Diener建築事務所\*\*の作品。バスの車窓から見える建築のパノラマが終わると、BelvoirparkやSkulptensammlungの花と緑の公園風景が続いて、Wollishofenの駅までくる。KirchbergのLindt & Sprüngli駅でバスを降りて、ベージュ色の煉瓦造りの工場をぐるりと回って、工場の敷地内に足を踏み入れる。煙突とベージュのレンガのファサードに赤煉瓦の縁取りがスタイリッシュな工場建物の横に、大きな曲面の白いレンガのファサード面に金色のLindtのエンブレムと文字がやけに神々しい。このHome of Chocolateの建築を手がけたのは、Basel出身の建築家Christ & Gantenbein\*\*\*。



建物の中でチケットを購入し、吹き抜けの方へ目をやると、ゴルドの巨大なトレイに乗った、巨大なチョコレートの球体に天井高く釣られた大きな黄金の泡立て器から滴り落ちるチョコレートの泉に言葉が失う。チョコレートの熱気と甘い香りに思わず手を伸ばしてしまいたいそうになるのは筆者だけではなく。丸い天窗から落ちてくる光と、キノコ型のコンクリートの柱がいくつも聳えるこの吹き抜け空間は素晴らしい。柱の一つは大きな螺旋階段の核にもなっていて、幅広の階段をぐるりと展示場の入口へと登る。彼らの建築作品には、階段を特別なエレメントとして空間の中に演出していることが多い。今回の作品でも、螺旋階段が光溢れる白い空間の中に堂々と演出されている。

展示場に入れば、オーディオガイドが借りられて、様々な言語で好きな場所の説明を何度でも聴けるところがいい。最初はカカオの森の生態



についての説明で、アフリカのガーナの森の中に飛び込んでしまったような気になる。次にチョコレートの歴史コーナーでは、現在のメキシコに当たる南アメリカのアステカ文明で神秘的な飲み物(精力剤や薬であって、甘くはなかった)が、コロンブスの大航海の時代を経てスペインに渡り、砂糖を加えてホットチョコレートの元祖のような飲み物になり、欧州の上流階級を中心に広がる。そして19世紀の第一次産業革命の時代になり、イタリヤ移民によりもたらされた、当時は手作りのチョコレートがスイスでも人気を呼び始める。

そしてついにスイス初のCajler社のチョコレート工場がVeveyに誕生する。その後、別のスイス人がコンデンスミルクをチョコレートに配合することに成功し、板チョコが段々と進化していく。この当時のチョコレートはまだ粉っぽく、舌にザラザラと後味の残るもので、あまり食感が良くなかった。そこで登場するのがリンツの初代創設者であるRudolf Lindt。貴族の血を引いた薬屋の長男として生まれ、叔父の所有するチョコレート工場で修行もしたリンツ氏は、ベルンにある中古の工場を買ってチョコレート原料を練る機械を使い、自分の理想とする美味しいチョコレートの開発に取り組む。失敗に失敗を重ねて、努力の末に彼の工場では神話が生まれる。一説によると、週末電気のスイッチを切り忘れた工場で三日三晩回り続けた水車仕掛けの機械は、チョコレートの生地を練りに練って、世にも不思議なまろやかでとろけるチョコレートを生み出したという。リンツ氏が週末あけの月曜日の朝、そのとろけるチョコレートを食べた時、どういふ思いだったろう。今ではそのチョコレートをスイスだけでなく、世界中で楽しめるというのはちょっとサクセスストーリーとしては出来過ぎなような気がしないでもないが、それにはチューリッヒの伝統的な銘菓であった家族経営のシュプルングリ社の経済的な支援と成功も大きく関係していた。

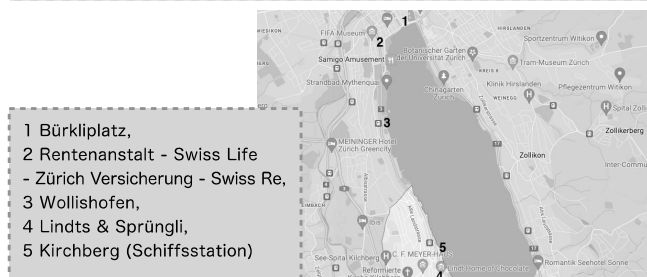
展示コーナーの最後には、工場でのチョコレート作りのプロセスを実際に目で見て、試食もできる。他にも、チョコレートの手づくりコースや様々なイベントやワークショップも行われているので、チョコレート好きには病みつきになる恐れあり。

展示を全て見終わって建物の外に出る前に、ショップで溢れんばかりのチョコレートとプラリネに囲まると、ここを何も買わずに出て行くのは到底無理でしょうと思われる。チョコレートにまつわる先人の多くの努力と研究の歴史を学んだ後では、企業秘密のレシピの詰まった一粒のプラリネの味わい方も深まるだろう。筆者はリンドルのたくさんの種類に圧倒されて、思わず袋いっぱい購入してしまった。

もしスイスのチョコレートの歴史に興味を持った方は、Alex Capusというスイス人作家が書いたPatriarchenという書籍を是非ともご覧ください。この本にはLindt & Sprüngli社の歴史が激動の時代を歩いた人物を中心に物語風書かれていて大変興味深い。そのほかにもスイスを代表する時計や食品、婦人靴産業のパイオニアたちの誕生の話がわかりやすく説明されている。

ショップを出たら、併設するカフェでふんだんに甘いデザートを楽しめそう。帰りは工場から湖を目指して歩けば、Kirchbergの船着場まですぐなので、ここからBürkliplatzまでゆっくりと船に乗ることにする。コロナのせいでしばらく旅行に出ていないという人には手軽に楽しめるっておきの場所である。 ©2013 Yuka Räuber

\* ウィーンの有名な建築家クリシュニッツはスイスにも多くの代表作をもつ。リートベルクミュージアムのオリエンタル風な幾何学模様のガラスファサードでチューリッヒではおなじみである。このチューリッヒ保険グループの本社ビルも、古い建物間にガラスのファサードが突然現れる様が面白い。Krischanitz.at  
\*\* パーゼルとベルリンにも事務所があり、元ETHの教授でもあるRoger Diener率いる建築事務所の作品は、チューリッヒではZürich Westにあるルネサンスホテルの入り高層ビルMobimo Towerなど。dienerdiener.ch  
\*\*\* 彼らの大規模な計画としては、チューリッヒ大学の病院改装計画が、現在進行中で2028年に完成予定。パーゼルのKunstmuseumは彼らの代表作なので、エスプリの効いたファサードと展示場がとても建築的なのでおすすめです。christgantbein.com





Zürich Kunsthaus

《メルツバッハー・コレクション》ガイドツアー

4月に開催されたビュールレ・コレクションに続き、メルツバッハー・コレクション (Sammlung Merzbacher) のガイドツアーです。ご夫妻で蒐集された美術品は現代美術にまで及びます。展示されている数々の名品を、パウルクレーセンター研究員の柿沼万里江さんに再び案内していただきます。

日時：6月29日(水) 10時30分から1時間 (延長の可能性あり)  
 (先月号の予告から、日にちが変更になっています)

集合場所：チューリッヒ Kunsthaus 新館 入り口のロビー

定員：20名 参加費：JCZ会員は無料 (水曜日は入場料無料)

\* 6月26日(日)までに、JCZ HPイベント申込フォームより、またはメールで kikaku@japanwiss.ch までお申し込みください。



アフタヌーンカフェのお知らせ

本格的な夏に向けて外で過ごす時間が長くなりますね。私たちを取り巻く情勢は厳しいものもありますが、たまには集まっておしゃべりしませんか？どなたでもどうぞ。

日時：6月9日(木) 14:00-16:00

場所：チューリッヒ Jelmoli 3Fのレストラン

申込：JCZ HPイベント申込フォームより

またはメールにて、

kikaku@japanwiss.ch まで。



JCZボランティア  
スタッフ募集!

JCZでは一緒に運営のお手伝いをしてくださる方を随時募集しています。内容はイベントの企画、IT知識のある方にはHPの管理、会計担当、会報編集、会報発送作業など、ご提供いただける時間によって様々です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

★編集★

edelweiss@japanwiss.ch

★企画・その他★

jcز@japanwiss.ch

日常ドイツ語  
サポートサービス

日ごろドイツ語がわからなくて困っていることはありませんか？JCZでは、そういった方々のサポートを行っています。ご利用になりたい方は、いつでもご連絡ください。

申込先：JCZ事務局

JCZ HPコンタクトフォームより、またはメールで  
jcز@japanwiss.ch

\*サポートの内容にもよりますが、10フラン程度をJCZへの寄付というかたちでお願いしています。



Kunsthaus ビュールレ・コレクションガイドツアー感想文

Kunsthaus (ビュールレコレクション) ガイドツアーに参加しました。まずはビュールレコレクションの背景とナチスに絡むスキャンダルの解説を受け、まだ作品を目の前にしていないのにグッと気分が盛り上がります。圧巻の作品群はビュールレが敬愛するセザンヌの部屋で始まり、フランス後期印象派を中心とした作品とそれに関連する作品が時代やテーマに沿って展示されていました。柿沼さんの軽妙な解説に刺激され、背景を深掘りしてコレクションを再訪したいと強く感じています。素晴らしい企画をありがとうございました。

(主題からそれますが、旧館にあったモネの睡蓮の画がビュールレコレクションの横の部屋に窮屈に展示されていたのが残念でした。旧館の一室で椅子に座ってトリップできたあの空間に戻って欲しいです。 M.K.)



チューリッヒ近郊イベント情報

\* トーンハレ tonhalle-orchester.ch

ブロムシュテット指揮 ブルックナー 交響曲第5番  
6月1~4日

「現在最長老のブルックナーを聴いておく価値はある！」

チューリッヒ国際オルガンデー 6月4~6日  
キッズ・オルガンデー 6月12日 (5歳以上)

ヤルヴィ指揮 イゴール・レヴィット (ピアノ)  
6月15~17日

《カルミナ・ブラーナ》

6月22、23、25日

今月の最注目株!

\* チューリッヒ歌劇場 opernhaus.ch

- オペラ -

《海賊》演奏会形式 6月1、6、10日

《ランメルモールのルチア》6月4、12日

今月の最注目株!

プリン・ターフェル リサイタル 6月15日

《フィガロの結婚》6月19、22、25、28日、7月1、3、7、10日

《トリスタンとイゾルデ》6月26、29日

- バレエ -

《パール・ギュント》6月2、3、16、17、18、24日

《眠りの森の姫》6月6、11 (18時 Ballett für alle 歌劇場前でライブビューイング、20時通常公演)、12日

\* ワインテイスティング Vinea

Festival de Merlots primés 6月2日 16時~20時

Zunftthaus zur Meisen,

Münsterhof 20, 8001 Zürich

zunftthaus-zur-meisen.ch

\* Gratis Workshop Fussweg - Gärten

6月8日 Zürich Affoltern

https://mailchi.mp/45be59244d5d/workshops-stadtideen-anmelden

緑に囲まれた街作りや植物の手入れなどについて学べ、地域興しにも貢献できる

\* 第5回ハーブ・植物市場 6月6日 10時~17時

rietberg.ch/markt

大人同伴で子供5歳以上から花輪飾りも作れる

\* アンネ・フランクとスイス

6月9日~11月6日 国立美術館Landesmuseum

Zürich Museumstrasse 2, 8021 Zürich

http://www.nationalmuseum.ch

日本でも有名な『アンネの日記』は実はスイス発だった!

\* チューリッヒ・アート週間

6月10~12日 11時~ https://zurichartweekend.com

世界的有名なアート・パーゼルに先駆けて。

\* チューリッヒ・シティ・トライアスロン

6月26日 Landwiese Mythenquai, 8031 Zürich

個人でもチームでも参加できる zurichcitytriathlon.ch

\* ヌーシャテル日本語学校たなばたまつり

6月19日 11時半~17時 Collège des Parcs

rue des Parcs 22, 2000 Neuchâtel

出店: WAKARA (唐揚げ)、ORYZA (寿司)、高橋パン、

イエーガー (和菓子)、Mono ni Kokoro (伝統工芸品)

https://nihongoneuchhp.wixsite.com/japonais/

tanabata2022

# KETTE

Vol.159

神代 和男さん  
(Bern 在住)

## ・お仕事は？

ベルンのUniversal Posta Union(UPU, 万国郵便連合)という国連の専門機関で、国際郵便業務システム関連の仕事をしています。世界中の郵便事業体にUPUが開発したシステムの配備、訓練を行うことが主要任務、コロナ前は1ヵ月に1回は出張があり、一般的にはあまり訪れないような国、例えばナウル、イラン、バミューダなどにも出張、楽しみの一つでもありました。近々出張が再開されますので、楽しい旅の暮らしに戻ることができます。

## ・スイスに来るまでのお話

大学中退後、30年ほど前まで、東京の高輪郵便局でアルバイトの期間を含めて7年間、郵便配達をしていました。郵便配達を定年まで続けるつもりで楽しい日々を過ごしていましたが、当時の課長から部内の登用試験を受けるよう強く勧められ、課長の顔を立てるつもりで受験。結果、郵政省の国際郵便部門に勤務するようになりました。その時にUPUとの接点ができ、郵政民営化後もUPUへの出張でベルンにはよく来ておりました。10年前、UPUに私に適した職務の空きが出たので応募したところ採用、日本の会社を辞めてベルンに参りました。

## ・スイス生活は如何ですか？

日照時間の短いスイスの冬が大好きです。逆に夏は日が長すぎてちょっと苦手、でも強烈な日差しを利用して干野菜を作り、漬物を楽しんでいます。干野菜、お天道様のお陰か、劇的に旨いです。酉年の朝型なので、朝早くから仕事を始めるスイスの生活は私にピッタリで、絶好調。スイスは公共交通機関も素晴らしく、時間に正確なだけ

ではなく、接続も考慮されている点、日本も見習うべきだといつも感じております。

## ・出身

東京都北区出身、赤羽の近くです。曾祖父は栃木県で神主をしておりました。



## ・趣味

国鉄マニアです。国鉄職員になりたかったのですが、民営化で夢破れ、流れ流れてスイスにおります。撮り鉄、乗り鉄、飲み鉄、鉄道マニアには色々ありますが、私は模型鉄。HO(1/87)スケールの国鉄型車両の模型、中でも昭和43年~44年頃、東北・常磐を走っていた車両を中心に集めたり、作ったりしています。真鍮製のキットを半田付けで組み立てるのは特に楽しく、半田がキラッと光り、流れていく様子は感動的ですからあります。

鉄道車両の中では食堂車が大好きです。日本では「日常使い」できる食堂車はほとんど廃止されましたが、スイスではまだまだ現役、新型車両にも食堂車が連結・営業しており、素晴らしい。鉄道はかくあるべし。チューリッヒの鉄道車両では、S10を走る、パンタグラフが車両正面から見て1.3メートル横に設置されている車両、衝撃の珍車です。もうすぐ見られなくなるので、今のうちに見に行きましょう。パンタグラフが片方に寄った車両をはじめ、消防用車両、組み立て済みの分岐器を斜めに搭載して運ぶ事業用車両など、スイスの鉄道車両には珍車が多く、列車に乗ると居眠りする暇を与えてくれません。鉄道以外では、出張先で地元のスーパーマーケットや市場に行くこと、水回りの金属類をピカピカに清掃することも趣味になりました。

## ・スイスに来て気づいた不思議

不思議であり、大好きな点が3つあります。《輝く水回り》ベルンに最初に出張に来た際、水回りがとてもきれいに清掃されており、その蛇口等の金属類がピカピカに保たれている点に非常に感激。石灰分が多い水ですから、こまめに清掃していないとあの輝きを維持することはできないでしょう。とても几帳面な国民性なんだろうと思いました。

## 《素朴なネーミングセンス》

Melectronicsや、チューリッヒ空港のBye bye bar、Oerlikon駅の8番線の近くにあるBistro Gleis 9。とても癒されます。Bistro Gleis 9は、新幹線100系を模したプレートが掲げられているところも好印象です。

## 《無人販売が成立する点》

無人販売が成立する国は日本、スイス、ほかにどこがあるでしょうか。近隣の国々からスイスに帰ってくるとなぜかホッとしますが、スイスの国民性、治安とも大いに関係があるかもしれません。

## ・お気に入りの町

オルテンです。昭和28年から29年にかけて、軽量鉄道車両の調査のため、国鉄が星晃という技術者を欧州に派遣しました。星さんが在欧中大半を過ごしたのがオルテンにあった、軽量車両の修繕工場でした。星さんは「回想の旅客車」という本でオルテンの町に細かく触れており、訪れてみたい場所の一つでもありました。的確な描写のおかげで、氏が歩いた道、食堂(経営は変わりましたが)を簡単に見つけ、巡礼し、星晃氏の偉業に想いを馳せることができる、「聖地」であります。星さんは国鉄に戻った後、「10系客車」という軽量構造の客車を設計します。10系客車は調査で得たセミモノコック構造を取り入れ、新幹線を含む国鉄の新型車両の礎にもなった形式です。10系客車の外観はどことなくスイス風、現在SBBを走る客車の中にも10系客車を彷彿とさせる車両がいます。それを見るたびに我々国鉄マニアは「10系だぁ」と叫び(心の中です)、星さんの偉業を想起し、日瑞のつながりに想いをいたすのです。

## 編集後記

このところ、急に暑くなり、湿度も高く、重たいお天気が続いています。皆様お元気でしょうか？

日本の卒業は3月ですが、こちらでは今まさに卒業試験真っ最中。JCZでも編集担当が1人卒業することになり、それに伴い役割分担の見直しやスタッフの増員を模索しております。会員の皆様のご参加、ご要望をお待ちしております。これからも会員に寄り添えるようなJCZを目指して参ります。

そしてEdelweiss誌にも、取り上げて欲しいテーマやその他ご意見、ご感想がありましたら、どしどしお寄せ下さい！

昨日ある記者会見場でリートベルク美術館館長とお話する機会がありました。元々日本文化にも重点を置いてくれている美術館ですが、来シーズンは日本のテーマが増えるそうです。乞うご期待！(SN)

## 広告掲載のご案内

ジャパンプラブチューリッヒでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

## 伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

\*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

## JCZ会報誌エーデルワイス

2022年6月号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中 東生 市居 美帆

アーノルド千津子

## \*編集部専用メールアドレス\*

edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会  
JCZ Japan Club Zurich  
Office of Honorary Consul  
General of Japan  
Färberstrasse 6, 4F, 8008 Zürich  
www.japanswiss.ch  
jcz@japanswiss.ch